



リニューアルオープンした
土佐佐賀温泉こぶしのさと

土佐佐賀温泉こぶしのさとリニューアルオープン記念式典

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年1月から休業していた「土佐佐賀温泉こぶしのさと」が4月25日(金)から営業を再開することに伴い、プレオープン日である4月21日(月)に記念式典が開催されました。

同施設を運営する(株)Founding Base観光事業の多胡友規部長は、「『さらに、ご湯つくり。』という言葉掲げていて、目的地としてここを利用してもらうのではなく、立ち寄りの場所として親しみやすい場所になってくれれば」と話しました。

式典後、プレオープンが行われ、来店した地元の方が食事をしたり、新たにリニューアルした大広間には佐賀保育所の園児らが遊びに来ていました。



感謝状贈呈の様子

光触媒施工の寄附

国内最大級の佐賀地区津波避難タワーの居室部分および海のバザールに設置の津波避難シェルター内部について、(一財)災害支援財団が光触媒※の施工を寄附しました。

施工は4月17日(木)、18日(金)に行われ、同団体の戸塚和昭さんは、「2年前に能登半島地震で起きた避難所での新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのクラスターを見て、他に手立てはないかと思いクラスターを防止できるものを研究していた。今回の寄附で社会貢献ができれば」と話しました。

※光触媒とは、主な成分に酸化チタンを含んでおり、光に反応することでウイルスが分解される作用のこと。



感謝状授与の様子

黒潮町教育振興交流支援施設完成記念

4月26日(土)、黒潮町教育振興交流支援施設が完成したことに伴い、チャリティーゴルフコンペ実行委員会が掃除機3台と防犯カメラ、そのほか備品を寄附しました。

同会会長の鳥谷秀文さんは、「環境の良いこの場所で、世界で羽ばたいていける人を育てる場所として何か支援ができないかとの思いがあり寄附をした。大方高校の魅力化にも使用してもらえれば」と話しました。

チャリティーコンペには、立目工務店を中心にたくさんの方にご協力いただきました。



アユを放流する園児ら

佐賀保育所園児ら稚アユ放流

不破原地区の伊与木川で4月21日(月)、「佐賀の伊与木川を守る会」が主催する稚アユの放流が行われ、佐賀保育所の園児14名が参加しました。

同取組は平成24年から行われており、今回の取組では約4,000匹の稚アユを放流しました。

同会副会長の打井幸一さんは、「毎年ウナギとアユを放流し、徐々に魚が増えてきている。このアユが大きくなったら、また川に捕りにきて楽しんでほしい」と話しました。

子どもたちは、「放したら見えないくらいまであつという間にいってしまった」、「大きくなって戻ってきてね」などと声をかけながら放流を楽しんでいました。